

## 陸運安全協力会パトロール結果の解析と改善策

はじめに

過去3年間の月次安全パトロール結果を解析した。

各社別のパトロール評価点数、積込時の監視でパネル中心である比率、指差呼称の平均評価点数を解析した結果について報告する。

## 1. パトロール結果の現状

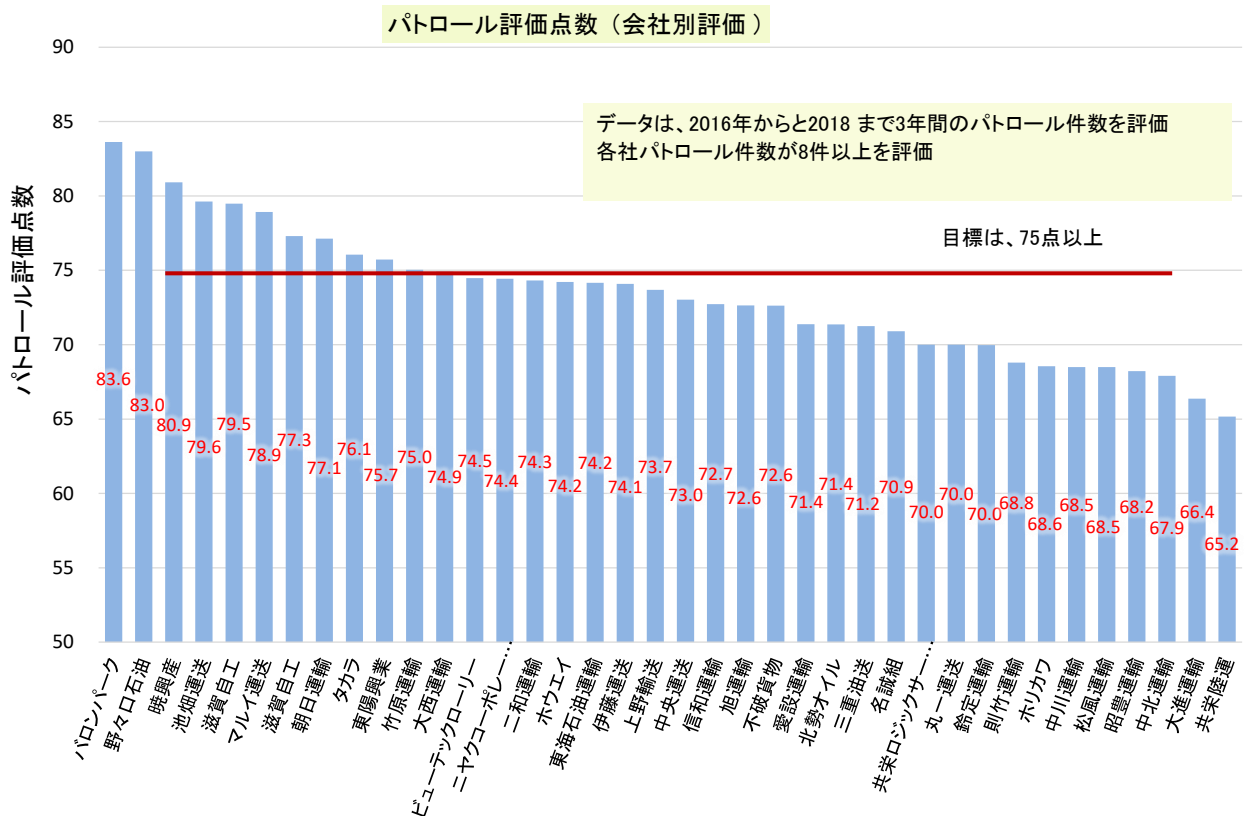
## ① パトロール全体評価の推移

2015年よりパトロール結果は、定量評価を行っており、目標のレベルは75点以上としているが、2018年には僅かに改善が進んだが、頭打ちの傾向である。

	2015年	2016年	2017年	2018年
パトロール評価点数	70.2	73.1	72.8	74.7

評価は、指差呼称の評価が、3の“声が小さい”でその他の個別評価が全て“良い”の状態を目標の最低のラインとしており、この時評価点が75点になるように設定されている。

目標ラインに達しない会社数が多いので、更なる取り組みが必要と考えられる。

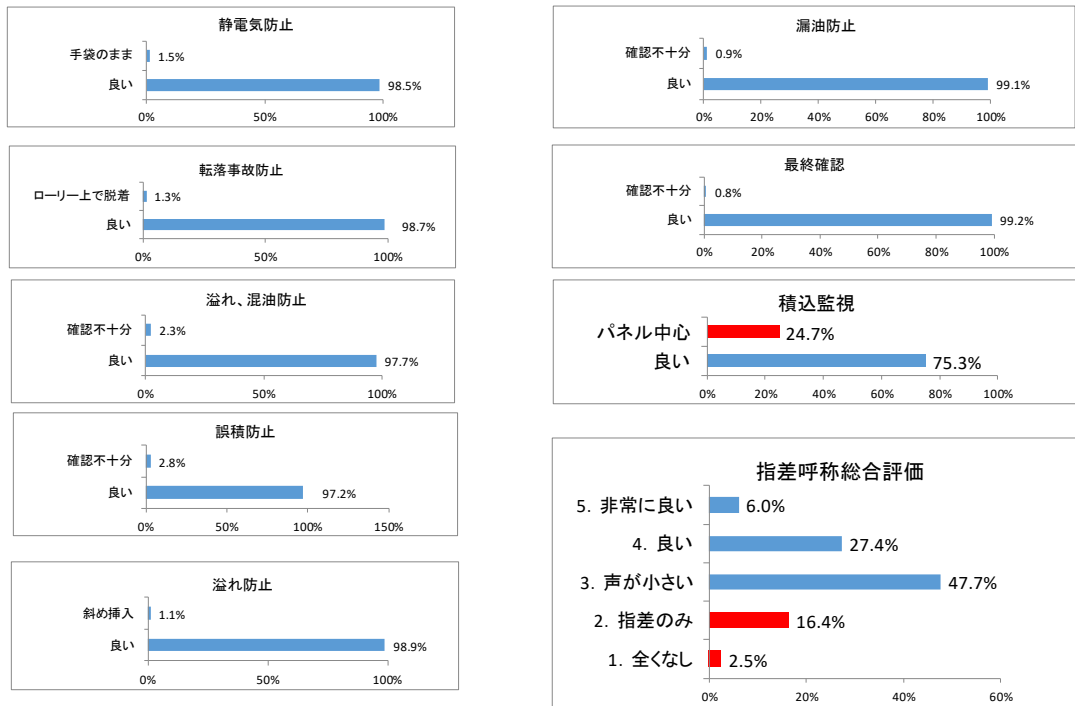


## ② パトロール個別評価

2018年のパトロール個別項目の評価は、以下の通りであり、積込監視でパネル中心の監視が多く指摘されており、このため全体の評価点が改善しないネックとなっている。

積込時パネル中心の監視の割合%	2016年	2017年	2018年
	23.7	25.3	24.7

2018年年間の各チェック項目の評価結果は、以下の通りである。

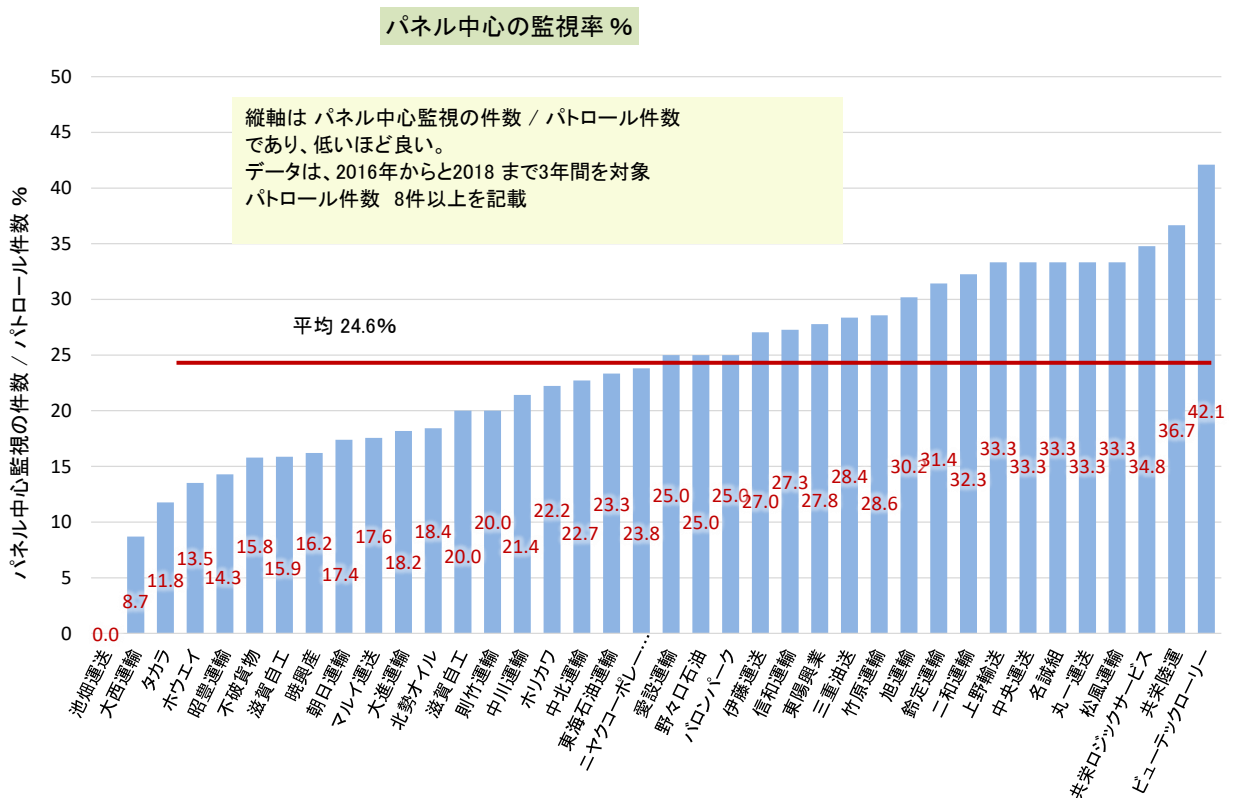


## 2. 積込監視の詳細解析

2016年から2018年までの3年間のパトロールデータより、積込監視の項目を会社別に解析し有意差を分析した。

パネル中心の監視の3年間の全平均値は、24.6%であるが、最も少ない会社から比率の大きい会社までかなりのばらつきがある。オーバーフロー発生時に素早く積込を停止させるためには重要な項目であり、改善が必要である。

各社には、自社の現状をこのデータから良く理解して、乗務員への周知指導をお願いしたい。



3. 指差呼称の会社別評価

指差呼称の評価では、1から5までの評価を次の点数に変換して点数評価している。

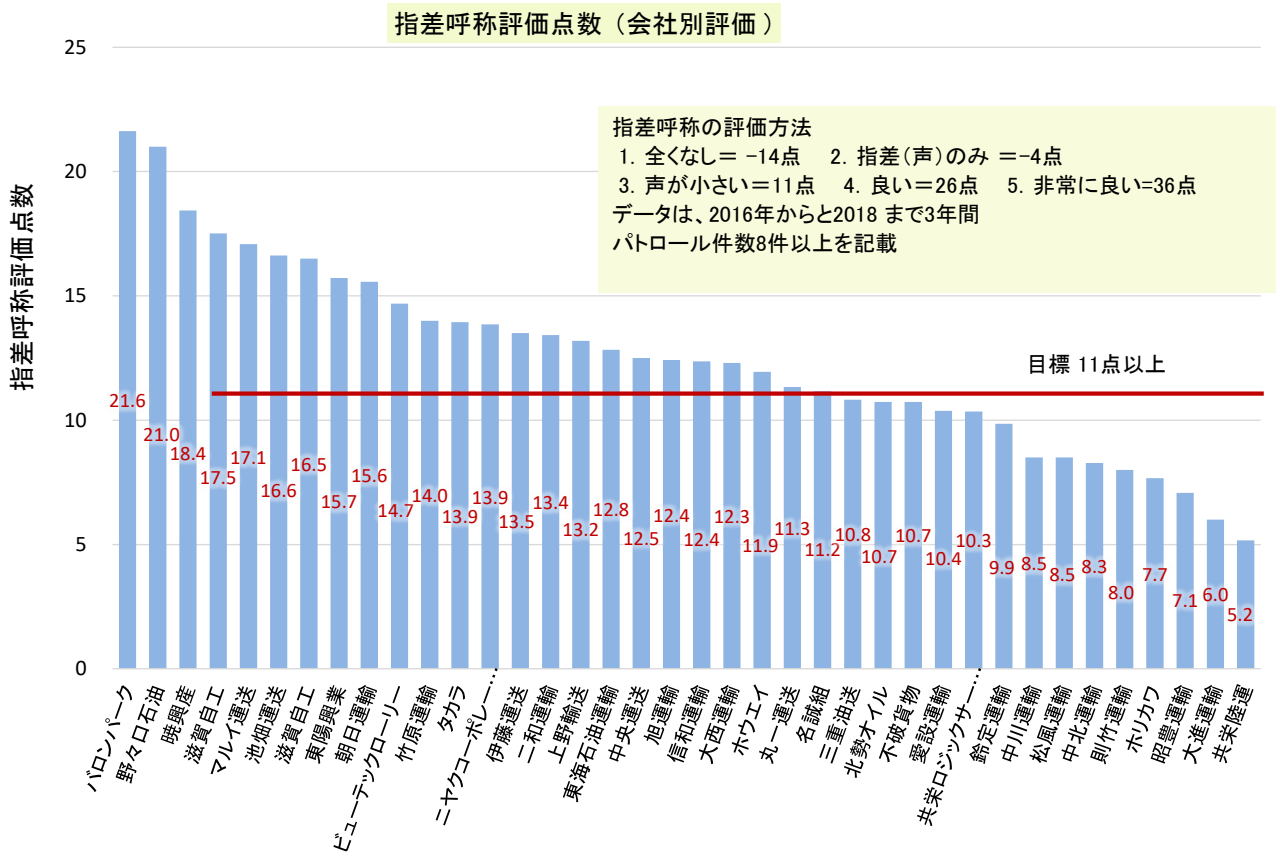
- 1. 全くなし = -14点    2. 指差(声)のみ = -4点    3. 声が小さい = 11点
- 4. 良い = 26点    5. 非常に良い = 36点

3の声が小さいと2. 指差(声)のみの得点差は、15点であるので、パトロール全体評価を改善するためには、指差呼称の評価を(実行率)上げて、1と2の評価を無くす必要がある。

過去3年間のデータを会社別に分析すると、最上位では、得点は21.6であり、ほとんどが“良い”レベルの会社もある。

目標の最低ラインは、3. 声が小さい = 11点であるが、パトロール数8件以上の会社38社中で11点以上の会社は、24社しかないなので、目標未到達の会社はさらに努力が必要である。

指差呼称については、乗務員個人の意識・取り組み以外に、会社組織としての教育、取り組みが重要であり、上位の会社には、会社組織として取り組みをリアリングして、他社への水平展開のヒントを把握することが必要と考えられる。



以上

## 参考データ

## 指差呼称の会社別平均点

指差呼称の評価では、1から5までの評価を次の点数に変換して評価している。

1. 全くなし = -14点
2. 指差(声)のみ = -4点
3. 声が小さい = 11点
4. 良い = 26点
5. 非常に良い = 36点

## 指差呼称の会社別平均点

	社名	パトロール回数	指差呼称合計得点	指差呼称平均得点
1	パロンパーク	8	173	21.6
2	野々口石油	8	168	21.0
3	暁興産	37	682	18.4
4	滋賀自工	63	1103	17.5
5	マルイ運送	148	2528	17.1
6	池畑運送	8	133	16.6
7	滋賀自工	10	165	16.5
8	東陽興業	18	283	15.7
9	朝日運輸	23	358	15.6
10	ビューテックローリー	19	279	14.7
11	竹原運輸	35	490	14.0
12	タカラ	17	237	13.9
13	ニヤクコーポレーション	21	291	13.9
14	伊藤運送	122	1647	13.5
15	二和運輸	31	416	13.4
16	上野輸送	48	633	13.2
17	東海石油運輸	90	1155	12.8
18	中央運送	30	375	12.5
19	旭運輸	53	658	12.4
20	信和運輸	11	136	12.4
21	大西運輸	23	283	12.3
22	ホウエイ	37	442	11.9
23	丸一運送	15	170	11.3
24	名誠組	30	335	11.2
25	三重油送	141	1526	10.8
26	北勢オイル	38	408	10.7
27	不破貨物	19	204	10.7
28	愛設運輸	8	83	10.4
29	共栄ロジックサービス	46	476	10.3
30	鈴定運輸	35	345	9.9
31	中川運輸	28	238	8.5
32	松風運輸	12	102	8.5
33	中北運輸	22	182	8.3
34	則竹運輸	10	80	8.0
35	ホリカフ	18	138	7.7
36	昭豊運輸	14	99	7.1
37	大進運輸	11	66	6.0
38	共栄陸運	30	155	5.2

## 会社別 パネル中心の監視率

オーバーフロー発生時に素早く積込を停止させるためには、ハッチ元を中心に監視している必要がある。

パネル中心の監視率はゼロが目標である。

## 会社別パネル中心の監視率

	社名	パトロール回数	パネル中心の監視数	パネル中心監視率 %
1	池畑運送	8	0	0.0
2	大西運輸	23	2	8.7
3	タカラ	17	2	11.8
4	ホウエイ	37	5	13.5
5	昭豊運輸	14	2	14.3
6	不破貨物	19	3	15.8
7	滋賀自工	63	10	15.9
8	暁興産	37	6	16.2
9	朝日運輸	23	4	17.4
10	マルイ運送	148	26	17.6
11	大進運輸	11	2	18.2
12	北勢オイル	38	7	18.4
13	滋賀自工	10	2	20.0
14	則竹運輸	10	2	20.0
15	中川運輸	28	6	21.4
16	ホリカフ	18	4	22.2
17	中北運輸	22	5	22.7
18	東海石油運輸	90	21	23.3
19	ニヤクコーポレーション	21	5	23.8
20	愛設運輸	8	2	25.0
21	野々口石油	8	2	25.0
22	パロンパーク	8	2	25.0
23	伊藤運送	122	33	27.0
24	信和運輸	11	3	27.3
25	東陽興業	18	5	27.8
26	三重油送	141	40	28.4
27	竹原運輸	35	10	28.6
28	旭運輸	53	16	30.2
29	鈴定運輸	35	11	31.4
30	二和運輸	31	10	32.3
31	上野輸送	48	16	33.3
32	中央運送	30	10	33.3
33	名誠組	30	10	33.3
34	丸一運送	15	5	33.3
35	松風運輸	12	4	33.3
36	共栄ロジックサービス	46	16	34.8
37	共栄陸運	30	11	36.7
38	ビューテックローリー	19	8	42.1